



編集・発行
熊本県立菊池農業高校
同窓会 事務局
TEL 0968-38-2621
題字：越猪 忠祐
(同窓会顧問)
http://www.higo.ed.jp/sh/kikuno/
印刷
株式会社 かもめ印刷

右肩上がりの母校（少子化・農業の衰退何ものぞ） 右肩下がりの日本農業（地産地消の薦め）

熊本県立菊池農業高等学校同窓会
緑水会長 工藤靖成



食肉偽装・賞味期限改ざん・産地偽装・餃子中毒事件に戸惑いながら世の中不信が頂点になった時事故米騒動がまきおこり恐怖のどん底に突き落とされ、政界も世界経済も激変し全ての事柄に疑惑の目を向けなければならぬ不安な日々が続いています。

そんな中で母校菊池農業高校だけは着実に躍進し、実に頼もしい存在として光り輝いていることに大変な喜びを覚えています。これは先生方の活躍はもとより保護者や地域の皆様方及び同窓生各位のご協力の賜物であり心より感謝申し上げますと共に更なるご支援を頂くために母校の近況をお伝え致します。

◆少子化の時代に突入し、本県でも高校再編問題で揺れ動いている教育界ですが、特に昨年は郡部の進学校全ての高校で定員割れが生じたのはご承知の事と存じます。農業系列高校でも七十数名の定員割れが生じた高校もありました。が、菊農では、定員をはるかにオーバーし、郡部ナンバーワンとなり

表1. 4年生大学への進学者数及び上級学校進学者数

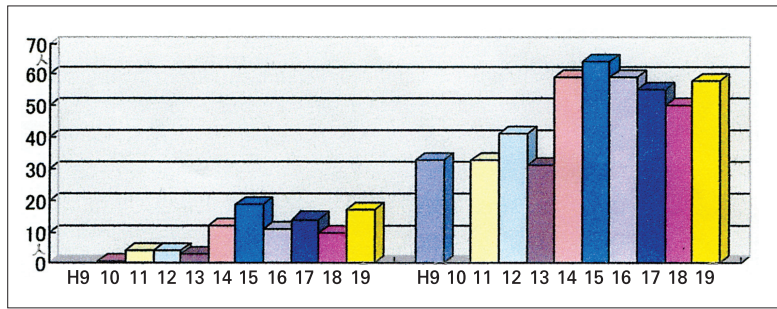
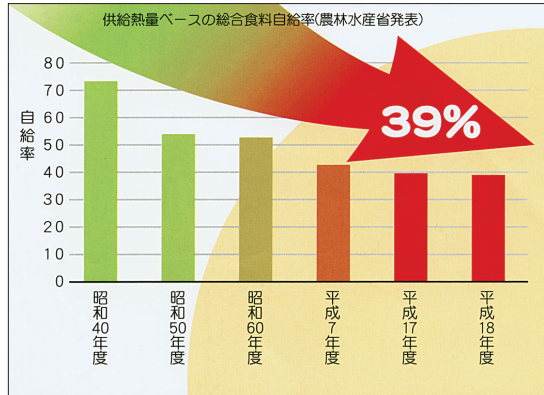


表2. 日本の食料自給率



燦然と輝いています。この十二年間定員割れを知らない菊農ですが、この事が生徒や職員を刺激し大学や専門学校への進学率の増加となっております。特に筑波大学・熊本大学を始めとする四年生大学にもここ数年で百名弱が進学し、進学校のイメージさえ芽生えてきています。

昨春は卒業生の三五%が上級学校へと進みましたが、混沌とする社会情勢から勘案すると、高度の農ク・太鼓部・プラスバンド部が大いに活躍をしています。一方育友会（PTA）の広報部が高校PTA新聞コンクールで優秀賞の栄冠を勝ち取るなど、誠に嬉しい事柄が報告されています。当同窓会の分野では蒼生会に後藤勝君（全国酪農青少年酪農発表

大会の最優秀賞・農林大臣賞受賞）佐々和宣君（JA意見発表大会最優秀賞 松岡清士さん（コックファーム）が上田農業賞を受賞され入会されました。日本農業の衰退と裏腹に菊農は全ての点で右肩上がりの展開が続き同窓会としては誠に嬉しいことであり感謝感謝の心境です。ただ、農業後継者の減少には依然として歯止めがかからず、県下唯一の文科省指定の農業経営者育成高校としては面目のない状況です。

表2のグラフが示す通り我が国の食料自給率が極端に低下し、本校がこの地に産声をあげたころ、国内の一次産業従事者は八〇%弱であったのが近年では四〇%程度にまで減少している現実を見ると後継者養成の難しさが理解できます。つい先日の情報では国内四百六十九万ヘクタールの農耕地の内三十八万ヘクタール（東京都の面積の二倍弱）の農耕地放棄地があるとの事、本県の場合も一万六千七百

十五ヘクタールが放棄されているとのことです。広大な面積を誇る菊農が約三十六ヘクタールで本校の面積の三百二十四倍の農地が遊んでいるのが本県の状況です。◆農業の役割は食料生産のみならず治水・景観保全・集落での地域文化の継承・地球温暖化の抑制など極めて多岐に渡っています。かつて、自給率四〇%だった島国のイギリスやキューバは危機を体験したことで現在七〇%台に回復しているのですから、他国で出て来ない事はない、本邦の危機を体験する前に食料自給率を向上させる政策が必要であると痛感しています。

そこには、農高で学んだ者の責務として「食の安全」「農地保全」「農家保護」「地球環境保全」特に「地産地消」等に目を向けられ日本農業の仕組みの再構築へ尽力され食料供給国へと発展させるぐらゐの意気込みを願っています。「やれる事からやってみよう！」

秀賞の六名の看板、家畜審査競技会県大会乳牛の部で最優秀の豊岡尊樹君の看板、県吹奏楽コンクールBパートの部で金賞を取った吹奏楽部の看板を掲げています。近くにお越しの折りは、後輩の活躍振りをお見せ下さい。そのほか看板はありませんが、県弁論大会優秀賞・優良賞、太鼓部の九州大会（平成二十一年一月薩摩川内市）出場、馬術部の高校総体八連覇などの賞を獲得しています。また、チャレンジ大分国体のボート競技が菊池市竜門ダム斑蛇口湖で行われましたが、その会場の花装飾を本校が依頼され、感謝状をいただいております。命を育む農業教育の地域貢献として幼保小学生への学校開放、一般の方への開放講座（二期土曜日に十回開催）など地域の農業高校として看板は掲げておりませんが、「菊農ここにあり」と多くの場面で頑張っています。

同じ看板を背負って

校長 川田博史



同じ看板とは、言わずもがな「菊池農業高校」という看板です。背負っているのは同窓の先輩であり、後輩であり、現役の生徒、教職員です。現在校門の入り口には「平成二十年（二十二年）度文科科学省・農林水産省連携事業 地域産業の担い手育成プロジェクト事業」の看板を掲げています。皆様ご承知の如く、本校は昭和四十年から文科科学省指定農業自営者育成高等学校の看板を掲げ、平成十年に農業経営者育成高等学校と名

称変更はあったものの、一貫して三六分の校地と花房寮の寮教育を中心とした学校運営がなされてきました。私はこの四月に宮崎堅正前校長先生の後を引き継ぎました。現在一〇五年の歴史に裏付けられた伝統の菊農教育をさらにレベルアップさせようと、八十名の職員と力を合わせ努力しているところです。緑水会の同窓生の皆様方には、蒼生会をはじめ、陰に日向に母校を御支援して頂いておりますことに感謝申し上げます。

運動場の北側道路に面してのフェンスには、農業クラブ全国大会（佐賀大会）農業鑑定「畜産」の部で全部門（畜産を含め九部門）出場者一〇〇〇名中全国第一位、文科科学大臣賞に輝いた畜産科学科三年の大城戸優子さんはじめ優

秀賞の六名の看板、家畜審査競技会県大会乳牛の部で最優秀の豊岡尊樹君の看板、県吹奏楽コンクールBパートの部で金賞を取った吹奏楽部の看板を掲げています。近くにお越しの折りは、後輩の活躍振りをお見せ下さい。そのほか看板はありませんが、県弁論大会優秀賞・優良賞、太鼓部の九州大会（平成二十一年一月薩摩川内市）出場、馬術部の高校総体八連覇などの賞を獲得しています。また、チャレンジ大分国体のボート競技が菊池市竜門ダム斑蛇口湖で行われましたが、その会場の花装飾を本校が依頼され、感謝状をいただいております。命を育む農業教育の地域貢献として幼保小学生への学校開放、一般の方への開放講座（二期土曜日に十回開催）など地域の農業高校として看板は掲げておりませんが、「菊農ここにあり」と多くの場面で頑張っています。

同窓会としては誠に嬉しいことであり感謝感謝の心境です。ただ、農業後継者の減少には依然として歯止めがかからず、県下唯一の文科省指定の農業経営者育成高校としては面目のない状況です。

そこには、農高で学んだ者の責務として「食の安全」「農地保全」「農家保護」「地球環境保全」特に「地産地消」等に目を向けられ日本農業の仕組みの再構築へ尽力され食料供給国へと発展させるぐらゐの意気込みを願っています。「やれる事からやってみよう！」

秀賞の六名の看板、家畜審査競技会県大会乳牛の部で最優秀の豊岡尊樹君の看板、県吹奏楽コンクールBパートの部で金賞を取った吹奏楽部の看板を掲げています。近くにお越しの折りは、後輩の活躍振りをお見せ下さい。そのほか看板はありませんが、県弁論大会優秀賞・優良賞、太鼓部の九州大会（平成二十一年一月薩摩川内市）出場、馬術部の高校総体八連覇などの賞を獲得しています。また、チャレンジ大分国体のボート競技が菊池市竜門ダム斑蛇口湖で行われましたが、その会場の花装飾を本校が依頼され、感謝状をいただいております。命を育む農業教育の地域貢献として幼保小学生への学校開放、一般の方への開放講座（二期土曜日に十回開催）など地域の農業高校として看板は掲げておりませんが、「菊農ここにあり」と多くの場面で頑張っています。

秀賞の六名の看板、家畜審査競技会県大会乳牛の部で最優秀の豊岡尊樹君の看板、県吹奏楽コンクールBパートの部で金賞を取った吹奏楽部の看板を掲げています。近くにお越しの折りは、後輩の活躍振りをお見せ下さい。そのほか看板はありませんが、県弁論大会優秀賞・優良賞、太鼓部の九州大会（平成二十一年一月薩摩川内市）出場、馬術部の高校総体八連覇などの賞を獲得しています。また、チャレンジ大分国体のボート競技が菊池市竜門ダム斑蛇口湖で行われましたが、その会場の花装飾を本校が依頼され、感謝状をいただいております。命を育む農業教育の地域貢献として幼保小学生への学校開放、一般の方への開放講座（二期土曜日に十回開催）など地域の農業高校として看板は掲げておりませんが、「菊農ここにあり」と多くの場面で頑張っています。

菊池農業高校出身に誇りを持って

筑波大学 第二学群生物資源学類

四年 岡部 菜実子

(平成十七年 食品化学科・卒)



高校を卒業してもう三年半、卒業するときの私の目標は「振り返ったときに、今の自分が小さく見えるような人になること」でした。大学四年生を迎えて、私はどんな成長ができたのでしょうか。

ケーキ屋さんになりたい、そんな夢を抱いて入学した菊池農業高校の食品化学科。実習は何よりも楽しみで、大きなオーブンでパンを焼いたり、給食室にあるような大きな釜でジャムを作ったり、初めてのことだらけでした。また、課外活動である農業鑑定競技に参加したことは私にとって大きな思い出で、それをきっかけにもっといろいろなることを知りたと思うようになり、学ぶというところが自分の生活にも生かせる知識を得られる、そして自分を成長させてくれる、という考えを持つようになったのもこの頃からです。私はケーキ屋さんになる夢から一転、国立大学への進学を目指すことになりました。

「農業高校から大学なんて」とり、不安もいっぱいでした。はじめて親元を離れて一人暮らしをすることに慣れていくわけですが、まずはホームシックにならないうまうま、なかなか帰れる距離でもなく、実家から送られてくる宅急便を心待ちにしています。また、方言が出てしまうこともひそかに悩んでいたりしました。幸い筑波大学は全国から学生が集まるということで、様々な方言が行き交っていたので安心できました。入学後すぐはサークルへの新入生勧誘に驚いたり、広い学内で迷ったりもしました。しばらくすると、つぐばの生活にも慣れ、サークルや学類の友人もたくさん出来たので、寂しさはなくなっていました。

大学生は何もかも自分の裁量に任せられるという生活。勉強も遊びもサークルもバイトも、といった絵に描いたような大学生活を送りながら、私はたくさんの人と出会い、知らないことを知り、刺激を浴び続けていたように思います。そして大学はたくさん講義の中から自分の取りたい授業を選んでいくというシステムです。私は次第に経済学や農業経営に興味を持つようになり、三年生のコース分けから社会経済学コースに所属することになりました。農業経営や関連する産業についての科目が増え、今まで肌で感じてきた農業を今度はシステムの面から見ることもできるようになりました。また、農業高校出身である私はどんなことが出来るのだろうと自分の存在意義についても考えることが多くなりました。

そうして迎えた三年生の秋、ついに就職活動の時期になりました。せっかくなので関東に出てきたし、という気持ちもあり首都圏で就職活動を行うことを決めました。高校生のときに考えていた就職とはかなり違い、まず自分はどうな人間なのか、何をやりたいのかという自己分析からはじまりました。自分の人生を振り返りながら将来を考えていく、ということを行う中で、私が強みにしたい部分は「農業高校を経て大学に進学し学んだこと」でした。実験・実習を中心に学ん

だ農業高校から、普通高校出身の学生が多い大学に行くことで、今まで出会ったことのない人達と話し、尊敬すべきところや意見の違いを感じました。そして、学んできたことにも違いを感じ、体を動かして学ぶことで知識が生きてきたという形で入ってくるというこの経験はきつと自分の中で大きく影響していると思ったのです。そこが私の個性であり、能力を生むところであるのだと。

就職活動では社会に存在するすべての職業から自分の就きたい職業を選べる、という贅沢な状況で、興味があるいくつかの業種を選び、説明会等に参加しました。そして、社員さんの姿や、なりたいたい自分、やりたいこと、自分の直感を信じ、「人材業界」で働きたいと考えるようになり、私が過去にそうしてもう一度、たたくさんの人たちの可能性を見出し、進路を広げる手伝いをしたいと思ったのです。どんな経歴でも将来は可能性に満ちているということをお伝えたいのです。そう思うと就職活動もより力が入り、前向きに行えるようになり、うまくいかな時期もありましたが、遅ればせ

ながら二十年七月に人材・教育事業を行う企業に無事内定をいただくことが出来たのです。大学生活は瞬く間に過ぎて、卒業までもう少し。就職活動を終えた私は卒業研究に必死です。「現代における農業高校の可能性」というテーマについて、母校である菊池農業高校の協力を得て研究を進めています。農業高校がどんな人材を輩出しているのか、生徒は実習でどんなものを得ているのか、農業高校の役割と可能性を明らかにしたいと思っています。私を成長させてくれた農業高校に何か恩返しが出来ればいいです。

そして、最後になりましたがこれからの目標をお伝えしようと思います。最初に述べた高校卒業時の目標「振り返ったときに、今の自分が小さく見えるような人になること」ですが、高校生の私は、今の私よりも小さく見えます。でも、努力の結晶が今でも輝いて見えるのです。今の自分の発する光が弱いと思うのです。過去の輝きをずっと称えるのではなく、それを糧にもっと光るように努力を重ねること、「今を生きている自分が一番大きく輝いている」と言えるようになりたいです。

「農業鑑定競技畜産の部、最優秀賞は：熊本県立菊池農業高等学校の大城戸優子さんです。」と、名前が呼ばれスポットライトがあたりました。嬉しさと驚きで気持ちを抑えるのに精一杯でした。

■■■ 進路状況 ■■■						
〈平成20年 3月 卒業者〉						
科		自営	就職	進学	その他	合計
農業科	男子	0	24	7	4	35
	女子	0	0	2	0	2
	計	0	24	9	4	37
園芸科	男子	0	23	1	1	26
	女子	1	5	1	0	6
	計	1	28	2	1	32
畜産科学科	男子	0	7	14	0	22
	女子	1	7	10	0	18
	計	1	14	24	0	40
食品化学科	男子	0	16	0	0	16
	女子	1	8	11	0	20
	計	1	24	11	0	36
生活文化科	男子	0	2	3	0	5
	女子	0	17	9	2	28
	計	0	19	12	2	33
合計		4	109	58	7	178

最優秀賞

平成20年度学校農業クラブ連盟全国大会農業鑑定競技会(畜産の部)

文部科学大臣賞 受賞!!

畜産科学科三年 大城戸 優子

「農業鑑定競技畜産の部、最優秀賞は：熊本県立菊池農業高等学校の大城戸優子さんです。」と、名前が呼ばれスポットライトがあたりました。嬉しさと驚きで気持ちを抑えるのに精一杯でした。

今まで頑張ってきた本当によかったと思えました。私が農業鑑定の勉強をはじめたのは一年生の頃からでした。しかし、二年生の頃はいい結果を残すことができず、悔しい思いばかりが残るものとなりました。今思えば、この悔しさが私自身の頑張る原動力になったと思っています。三年生でも農業鑑定の勉強を続ける決意をし、『全国大会入賞』を目標に毎日コツコツと努力しました。

全国大会当日は、あまり緊張せずリラックスして競技に集中することができました。何問か難しい問題もありましたが、今まで勉強してきたことに自信を持って解くことができました。競技が終了し成績発表までは一日程あったので、ずっとドキドキしていました。最優秀賞を受賞することができ、本当に良かったです。

私が今回最優秀賞を受賞することができたのは、決して自分だけの力ではないと思います。勉強を教えてくださいました先生方や、今まで一緒に勉強してきた支えてくれた友達、周りの方々の支えがあった受賞できたと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験をこれから先の大学生活などに生かしていきたいと思えます。

「文部科学省・農林水産省共同事業 地域産業の担い手育成プロジェクト 研究指定校」ほか

「緑水会法被」完成

平成20年度 緑水会事業報告	
期日	事業内容
2月5日	もみの木寄贈
2月6日	明日からの営農を語る会
2月11日	菊池市校歌祭
2月29日	緑水会入会式
3月1日	卒業式
3月15日	緑水会総会
4月8日	入学式
4月26日	支会活性化会議
5月30日	七城支会総会
6月6日	蒼生会総会
9月25日	ピッチングマシン贈呈式
10月21日	大津支会総会
11月9日	菊農フェスタ
11月18日~11月20日	日韓交流20周年記念式典 訪韓 驪州農高で式典
12月9日	韓国 驪州農高来校
12月10日	韓国 朴先生来校 (日韓交流20周年記念講演)

事務局だより

ピッチングマシン贈呈式

菊池農(創立21年)夏初勝利

「二死劇的サヨナラ」

創立二十一年目の夏の大会初勝利。菊池農が待ちに待った瞬間が劇的に訪れた。



緑水会から野球部にピッチングマシンを贈呈した。九回二死一塁からサヨナラヒットにより初勝利を呼び込んだ。(熊日新聞)

支会活性化会議

(平成20年4月26日)

十九年度の反省を生かして、早速支会活性化に向けて会議を開催。七支部の参加であった。



校内看板への補助

「文部科学省・農林水産省共同事業 地域産業の担い手育成プロジェクト 研究指定校」ほか

日韓交流20周年記念事業

(1) 韓国驪州農高訪問

記念式典が韓国驪州農高で盛大に行われた。

(2) 驪州農高生が菊池農高訪問

高校生二十名が菊池農高訪問、体育館で歓迎式典、寮で交歓会を行い宿泊研修・二十周年記念植樹

(3) 韓日交流協会会長

元驪州農高校長 朴先生来校

日韓交流について記念講演、元同窓会長・緑水会顧問 越猪忠祐先生講演

写真提供：小田原健(菊農職員)